

Ⅱ 農場運営

1 総務事項

1) 人事異動

2020. 4. 1 異動
瀬戸口 浩：農場事務係長（兼務）（総務課課長）
新規採用
日高 裕希：入来牧場技術職員
持田 暁子：農場事務係事務補佐員
河野 恵：農場事務係事務補佐員（入来牧場）
川畑みさと：農場事務係事務補佐員（指宿植物試験場）
配置換
飯盛 葵：指宿植物試験場技術職員（前入来牧場技術職員）
有働 穰嗣：入来牧場技術職員（前指宿植物試験場技術職員）
2020. 7. 1 異動
川崎 勇二：農場事務係長（兼務）（総務課課長代理）
2020. 9. 30 辞職
宿里 香代：農場事務係事務補佐員
2020. 10. 1 採用
田尻 久恵：農場事務係事務補佐員
2020. 12. 31 辞職
片平 清美：入来牧場再雇用職員
2021. 3. 31 退職
相場 可奈：農場事務係事務補佐員（唐湊果樹園）

2) 技術職員研修

農場実習の高度化および充実を図るためには、技術職員の資質向上が不可欠である。農場では技術職員の資質向上を最重要課題と位置づけて、以下のような各種の研修を実施した。

(1) 伐木等業務（チェーンソー等）特別教育講習

時 期：令和2年7月20日～21日
場 所：鹿児島県木材銘木市場協同組合（鹿児島市）
研修者：学内農事部 野村哲也技術専門職員

(2) 伐木等業務（チェーンソー等）特別教育「補講Ⅰ」講習

時 期：令和2年7月22日
場 所：鹿児島総合卸商業団地協同組合（オロシティーホール）（鹿児島市）
研修者：学内農事部 野村哲也技術専門職員，入来牧場 富永輝技術専門職員，同 石井大介技術職員

時 期：令和2年7月30日
場 所：指宿市民会館（指宿市）
研修者：指宿植物試験場 谷村音樹技術専門職員，同 勘米良祥多技術専門職員，同 飯盛葵技術職員

時 期：令和2年11月29日
場 所：南さつま市民会館（南さつま市）
研修者：唐湊果樹園 福留弘康技術専門職員

(3) 車両系建設機械運転（整地等）技能講習

時 期：令和3年1月18日～22日
場 所：鹿児島教習所（鹿児島市）
研修者：入来牧場 有働穰嗣技術職員，同 日高裕希技術職員

3) 農場施設の利用

農場では、学外・内を問わず広く施設の利用を受け入れている。

(1) 学外

(学内農場農事部)

- ・鹿児島テレビ放送株式会社 報道制作局 2名
時期：令和2年4月8日
内容：エディブルフラワー取材のため
- ・鹿児島テレビ放送株式会社 報道制作局 2名
時期：令和2年4月14日
内容：エディブルフラワーの撮影のため

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学外者のみならず学内者の受け入れも制限せざるを得ず、利用者は過年度と比較して大幅に減少した。

(唐湊果樹園)

- ・ニチレイフーズ 3名
時期：令和2年10月29日
内容：アセロラ共同研究に関する打合せ

(指宿植物試験場)

- ・ニチレイフーズ 2名
時期：令和2年10月30日
内容：アセロラ共同研究に関する打合せ

(入来牧場)

- ・株式会社郷土開発 2名
時期：令和2年4月7日
内容：国立天文代VERA入来観測局のドローン撮影のため
- ・(株)川北電工 6名
時期：令和2年5月26日
内容：牧場内の鉄塔(Na71, Na73)敷地内の除草作業
- ・聖マリア学園 吉野幼稚園 32名
時期：令和2年7月21日
内容：牛へのえさや、子牛へのミルクやり等の体験学習
- ・鹿児島大学生協 9名
時期：令和2年9月28日～9月29日
内容：入来牧場牛肉フェアのための牧場体験
- ・(株)川北電工 7名
時期：令和2年11月9日
内容：牧場内の九電鉄塔敷地(Na71, Na73)および周辺の除草作業
- ・エストニア生命科学大学獣医学部 1名
時期：令和2年12月23日～令和3年1月11日
内容：入来牧場での業務を学ぶ実習

(2) 学内

(学内農場農事部)

- | | |
|----------|--|
| 5月7日～22日 | サツマイモ機械化栽培技術に関する研究のため(10名) |
| 5月21日 | 水土実験において畑地における水の浸透試験を実施する(23名) |
| 6月24日 | サツマイモの栽培をすることでそれぞれの品種の特性を知ったり、植物を育てることの大変さを肌で感じたりすることができ、今後のエコスイーツ活動へ活かすため(7名) |
| 8月6日 | サツマイモ畑の除草(3名) |
| 10月19日 | サツマイモ畑の除草(5名) |
| 10月25日 | サツマイモ収穫(7名) |
| 令和3年 | |
| 1月8日 | 農学部教職員組合の職場懇談会(8名) |

(唐湊果樹園)

- 6月5日 樹木の同定実習 (15名)
6月19日 樹木の同定実習 (15名)

(指宿植物試験場)

- 4月9日 クサトベラの手入れ, 植えかえ作業 (1名)
5月1日 サトウキビのサンプリング (1名)
5月25日 クサトベラの葉のサンプリング, 開花状況・生育状況のチェック (1名)
5月28日 カカオ研究の打合せ (2名)
6月2日 遺伝資源保存用のヤムイモおよびウコンの管理作業 (5名)
6月18日 クサトベラの開花状況の観察 (1名)
7月9日 解析用のクサトベラ組織のサンプリング, 開花状況と成育状況のチェック (2名)
7月27日 遺伝資源保存用のヤムイモおよびウコンの管理作業 (5名)
8月25日 修士研究でカカオの光合成を測定するため (1名)
9月4日 クサトベラの開花状況と成育状況のチェック (1名)
10月12日 修士研究でカカオの光合成を測定するため (1名)
10月27日 クサトベラの生育状況のチェック, 施肥のため (1名)
12月5日 保存用ヤムイモおよびウコン収穫・調査 (11名)
令和3年
3月26日 遺伝資源保存用のヤムイモ消毒と圃場準備調査 (3名)

(入来牧場)

- 4月1日 草地管理 (1名), ライトセンサス (2名)
4月8日 草地管理 (3名)
4月15日 草地管理 (3名)
4月22日 草地管理 (3名)
4月28日 草地管理 (3名)
5月1日 草地管理 (2名), 博士論文研究 (シカ害に関する調査) (1名)
5月7日 草地管理 (2名), 博士論文研究 (シカ害に関する調査) (1名)
5月13日 草地管理 (2名), 博士論文研究 (シカ害に関する調査) (1名)
5月22日 草地管理 (2名), 博士論文研究 (シカ害に関する調査) (1名)
5月27日 草地管理 (2名), 博士論文研究 (シカ害に関する調査) (1名)
6月9日 草地管理, ライトセンサス (3名)
6月17日 ヤギ放牧の準備, 植生調査 (5名)
6月24日 草地管理 (3名)
7月1日 ヤギ放牧・整備 (2名)
7月3日 ヤギ放牧・整備 (2名), 草地管理 (3名)
7月8日 ヤギ放牧・整備 (2名), 草地管理 (3名)
7月15日 ヤギ放牧・整備 (2名), 草地管理, ライトセンサス (3名)
7月22日 ヤギ放牧・整備 (3名), 草地管理 (3名)
7月29日 ヤギ放牧・整備 (2名), 草地管理 (3名)
8月5日 ヤギ放牧・整備 (1名), 草地管理 (1名)
8月7日 ヤギ放牧・整備 (1名), ヤギ放牧地の植生調査 (1名)
8月11日 ヤギ放牧・整備 (2名), 草地管理 (2名), ライトセンサス (6名)
8月26日 ヤギ放牧・整備 (2名)
8月31日 卒論計画打合せ (2名)
9月16日~18日 牛による発酵TMRの嗜好試験 (4名)
9月30日 ヤギの体重測定と放牧地の整備 (2名), シカ侵入状況の調査 (ライトセンサス) (2名)
9月18日 牛による発酵TMRの嗜好試験 (5名)
10月14日 ヤギの飼養管理 (1名)
10月21日 ヤギの飼養管理 (1名)
10月27日 理学部物理科学科3年の授業「天体観測実習」の一環として, 鹿兒島大学1m光赤外線望遠鏡施設の見学を行う (23名)
10月28日 ヤギの飼養管理 (2名), シカの侵入状況の調査 (ライトセンサス) (2名)

Ⅱ 農場運営

11月4日	ヤギの退牧（1名）
11月9日	牛の毛根と糞便の採材（3名）
11月20日	シカの侵入状況の調査（ライトセンサス）（2名）
12月18日	シカの侵入状況の調査（ライトセンサス）（2名）
令和3年	
2月10日	シカの侵入状況の調査（ライトセンサス）（2名）
3月10日	シカの侵入状況の調査（ライトセンサス）（2名）

4) 刊行物

鹿児島大学農学部農場年報，第15号（2021.3）（2015年度から印刷物を廃止し，Webでの配信のみとした）
鹿児島大学農学部農場研究報告，第42号（2021.3）

5) 行事

7月10日 学内農場農事部お田植え祭

※本年度は，新型コロナウイルス感染拡大防止のため，以下行事の開催を見送った。

展示即売会
入来牧場牧神祭
唐湊果樹園収穫祭

6) 令和2年度全国大学附属農場協議会

(1) 春季協議会（メール審議）

日 時：令和2年5月20日～28日

(2) 秋季協議会（メール審議）

日 時：令和2年9月14日～24日

(3) 九州地域協議会及び技術職員教育・研究発表会

※本年度は，新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見送った。

2 会計事項

1) 予算および決算

令和2年度の農場予算および決算は，第6表のとおりである。予算額90,793,000円に対し，決算額91,011,000円で，218,000円の過不足額が生じた。

第6表 令和2年度予算および決算

(単位：円)

施設名	当初配分額	追加配分額 および振替額	予算額	決算額	差引過不足額
農場実習経費	0	0	0	0	0
農場実習支援経費	34,148,000	5,757,000	39,905,000	39,923,000	△18,000
農場運営経費	45,458,000	5,430,000	50,888,000	51,088,000	△200,000
主事	0	0	0	0	0
植物部門主任	0	0	0	0	0
動物部門主任	0	0	0	0	0
合計	79,606,000	11,187,000	90,793,000	91,011,000	△218,000

2) 機械，設備および備品

今年度は，機械，備品への予算の充当はなかった。

第7表 平成2年度機械設備等の整備（50万円以上 予算：自己収入）

機械設備名	メーカー・規格	数量	金額（円）	施設名
該当無し				
合計				

3) 施設整備

(1) 学内農場農事部

数年前より、作物生産に配慮した輪作体系を組み、最低でも5年間の間隔をあけるようローテーションを組んでいる。また、単作にならないよう緑肥などと組み合わせ、耕種的防除を行っている。

施設に関しては、耐用年数を越えたハウスや硬質プラスチックハウスが存在し、部分的な補修を行い使用しているが、今後全体的な改修が必要と思われる。

(2) 唐湊果樹園

果樹園は敷地境界にフェンスを設置しているが、老朽化している箇所がみられることから、更新が必要である。また、敷地境界では、ゴミの投げ込みもみられることから対策もあわせて必要となる。

(3) 指宿植物試験場

ここ数年、施設の加温に利用している温泉量が減少傾向にあるため、一部の温室やハウスでは、従来の温度確保がむずかしくなってきた。一時的な現象かどうかを見極める必要があるが、平成20年度に導入された「省エネルギー型生産技術開発システム」に利用する温泉量も減少しており、今後、湯量の確保に向けた方策が必要になる。更に、倉庫や堆肥置き場などの老朽化や大雨時の浸水などへの対策、管理棟の風呂の改修が望まれる。

(4) 入来牧場

入来牧場管理棟は、竣工(1968)後、50年を経過し、壁面の亀裂、雨漏りなど、老朽化が著しい状況であった。平成20年度には、平成19年度から繰り越した農場経費と大学本部経費により、女性用トイレと風呂の新設および職員室の改修を行ったものの、入来牧場管理棟2階部分(宿泊室、講義室)、1階部分(男子トイレ、風呂、食堂)および外壁の改修が課題として残っていた。平成29年度概算要求により、平成30年度の入来牧場管理棟全面改修工事が決定し、令和元年度に全面改修が完了している。一方で、現場の畜舎に関しては管理棟同様竣工後約50年を経過しているものの、改修の目途が立っていない。学生教職員の安全確保の観点からも、現場畜舎の概算要求による改修を引き続き申請している。

(5) 学内農場畜産部

動物飼育棟は築約35年を経過し、雨漏りが頻発していたため、これまで部分的な補修を繰り返してきた。しかし、部分的な補修では改善が見られないことから、平成23年度末に附属演習林から予算借入れを行い、屋根の全面補修を行った。その結果、雨漏りは止まったものの、建物本体の劣化および排水などの問題は依然として残ったままである。

3 各種会議および委員会

農学部は平成28年度(2016年度)に改組を行い新体制がスタートした。改組は学年進行であるが新組織に適應させるよう本農場の各種会議および委員会の構成員も変更を行った。

1) 農場会議

(1) 委員名簿(任期2年 2020年4月1日~2022年3月31日)

農場長(議長)	山本 雅史
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
応用植物科学コース	志水 勝好
応用植物科学コース	清水 圭一
応用植物科学コース	坂巻 祥孝
畜産科学コース	中西 良孝
食料農業経済学コース	李 哉汝
食料生命科学科	渡部 由香
農林環境科学科	神田 英司
総務課課長	瀬戸口 浩

(2) 会議記録

第1回：令和2年8月5日（火）15時00分～16時00分

- 議題 1. 令和元年度附属農場決算（案）について
2. 令和2年度附属農場予算（案）について

報告事項

1. 令和2年度全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員教育・研究発表会について
2. 令和2年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会について
3. 令和2年度第1回農場運営委員会の報告について

第2回：令和2年9月14日（月）～9月18日（金）（メール会議）

- 議題 1. 令和2年度後期農場実習（案）について

第3回：令和3年1月25日（月）14時30分～14時55分

- 議題 1. 農学部附属農場長候補適任者の選考について
2. 「鹿児島大学農学部附属農場植物遺伝資源取扱申し合わせ（案）」について

2) 農場運営委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2020年4月1日～2022年3月31日）

農場長（委員長）	山本 雅史
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
兼任教員	下田代智英
兼任教員	香西 直子
兼任教員	高山 耕二
農事部技術総括	野村 哲也
唐湊果樹園技術総括	福留 弘康
指宿植物試験場技術総括	谷村 音樹
入来牧場技術総括	松元 里志
総務課課長代理	川崎 勇二（農場事務係長兼務）

(2) 委員会記録

第1回：令和2年8月5日（水）15時00分～16時00分

- 議題 1. 令和元年度附属農場決算（案）について
2. 令和2年度附属農場予算（案）について
3. その他

報告事項

1. 令和2年度全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員教育・研究発表会について
2. 令和2年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会について
3. 各施設報告

3) 農場実習教育委員会（任期なし）

(1) 委員名簿

農場長（委員長）	山本 雅史
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
農業生産科学科 応用植物科学コース	坂上 潤一
〃	志水 勝好
〃	一谷 勝之
〃	下田代智英
〃	角 明夫
〃	橋本 文雄
〃	清水 圭一

応用植物科学コース	吉田理一郎
〃	津田 勝男
〃	坂巻 祥孝
〃	香西 直子
畜産科学コース	中西 良孝
〃	後藤 貴文
〃	岡本 新
〃	三好 和睦
〃	大久津昌治
〃	高山 耕二
〃	下桐 猛
〃	大塚 彰
〃	井尻 大地
農林環境科学科 地域環境システム学コース	末吉 武志
自然科学教育研究支援センター	
遺伝子実験施設	田浦 悟

(2) 委員会記録

第1回：令和2年9月14日（月）10時30分～11時00分

議題 1. 令和2年度後期農場実習（案）について
報告事項

1. 植物部門の実習検討WGについて

第2回：令和3年3月12日（金）15時00分～15時40分

議題 1. 令和3年度前期農場実習（案）について
報告事項

1. 植物部門の実習検討WGについて

4) 附属農場施設等利用委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2020年4月1日～2022年3月31日）

農場主事（委員長）	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
応用植物科学コース	下田代智英
応用植物科学コース	一谷 勝之
応用植物科学コース	香西 直子
畜産科学コース	高山 耕二
食料生命科学科	樗木 直也
農林環境科学科	神田 英司

(2) 委員会記録

第1回：令和2年8月20日（木）（メール会議）

議題 1. 令和2年度後期施設等利用計画（案）について
2. その他

第2回：令和3年2月2日（月）（メール会議）

議題 1. 令和2年度前期施設等利用計画（案）について
2. その他

5) 農場研究報告編集委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2020年4月1日～2022年3月31日）

応用植物科学コース（委員長）	山本 雅史
農場主事	遠城 道雄
応用植物科学コース	下田代智英
畜産科学コース	下桐 猛
食環境制御科学コース	赤木 功

(2) 委員会記録

第1回：令和2年4月3日（金）10時00分～10時10分

- 議題 1. 農場研究報告編集委員会委員長の選出について
2. 鹿児島大学農学部農場研究報告原稿の募集について
3. その他

第2回：令和2年11月6日（金）9時00分～12時00分

- 議題 1. 農場研究報告第41号受付原稿の査読者の選定について
2. その他

6) 農場家畜防疫対策検討委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2020年4月1日～2022年3月31日）

農場長（委員長）	山本 雅史
農業生産科学科畜産科学コース	岡本 新
〃	中西 良孝
〃	井尻 大地
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
入来牧場技術総括	松元 里志
入来牧場管理獣医師	山口 浩

(2) 委員会記録

第1回：令和2年11月26日（木）（メール会議）

- 議題 1. 動物飼育棟へのミニプタ移動について
2. その他

4 入来牧場における牛白血病ウイルス（BLV）清浄化の進捗状況

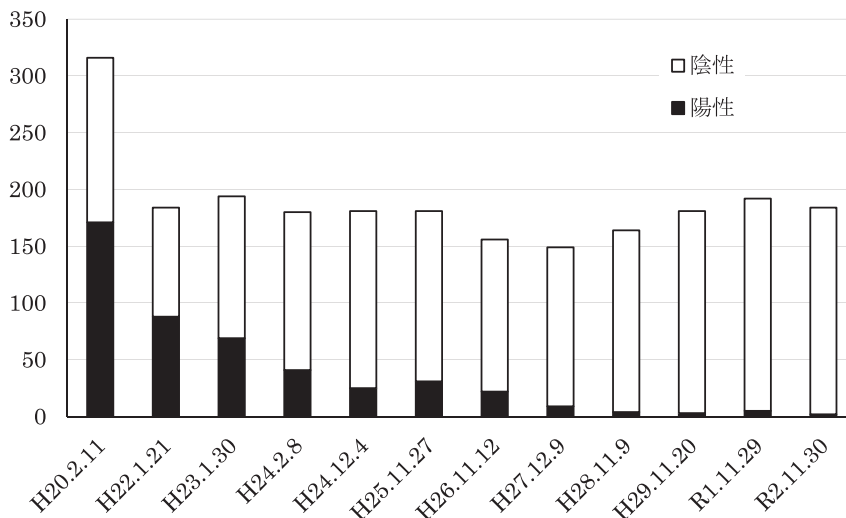


図1 牛白血病ウイルス保有率の推移

平成19年10月、入来牧場における飼養牛のBLV血清抗体価を調査した結果、検査頭数361頭のうち、陽性牛は210頭となり、全体の58%が牛白血病ウイルスに感染していることが判明した。この結果を受け、農場では平成20年1月以降、家畜防疫対策委員会を設置し、入来牧場の牛白血病ウイルス清浄化を、分娩管理および分離飼育の両側面から進めることを決定した。入来牧場では、直ちに清浄化対策を実施し、平成20年5月で陽性率51%、平成20年11月には陽性率は41%、平成23年1月には陽性率36%、平成24年2月には陽性率23%、平成24年12月には陽性率14%と着実に陽性率の低下を実現し、平成19年以降、陽性率は44ポイント低下している。平成25年11月の調査では陽性率17%、平成26年11月の調査では陽性率14%であったが、平成27年度以降の調査では陽性率が10%を下回って横ばいに推移しており、令和2年11月の調査では1%であった。現在、継続的な防疫体制維持により、牛白血病ウイルスを一定数でコントロールできていると考えられる。この一定数のBLV感染は、陽性牛を集めて出荷までの間飼養している肥育牛舎での水平感染が主な要因となっている。現在、BLV清浄化は最終段階に入っており、今後数年間で入来牧場の肥育牛舎飼養牛をオールアウトし、牛舎消毒等を実施する予定である。それまでの間、引き続き陽性が確定された牛を直ちに出荷するとともに、陰性牛の陽転を観察するため、定期的な血液検査を行っていく予定である。